

平成 30年 12月作成

認知症総合支援事業に関する市町村の取組

秋田県 羽後町

基礎データ

- **総人口: 15,072人** (H30.9月末現在…羽後町調べ)
- **高齢者人口: 5,550人** (H30.9月末現在…羽後町調べ)
- **高齢化率: 36.8%**
- **要介護・要支援認定者数: 1,186人** **要介護認定率: 21.4%**
(H30.8月末現在…出典:厚生労働省「介護保険事業状況報告」(H30.8月月報))
- **日常生活圏域数: 1圏域**
- **地域包括支援センター数: 1ヶ所 (直営)**
- **第6期介護保険料: 6,050円**
(厚生労働省ホームページより)

【認知症総合支援事業】

1. 認知症初期集中支援チーム

1 設置状況（平成29年3月 設置）

- ・ 1チーム5名体制で町立羽後病院に設置
- ・ サポート医は町立羽後病院の内科医、看護師は認知症看護認定看護師

2 取組の状況（平成29年3月～30年10月）

- ・ 訪問実人数は22名（訪問延べ件数38件）
- ・ モニタリング(電話等) 139件
- ・ 専門医を含めたチーム員会議 11回
- ・ 訪問支援対象者は、本人、家族、関係者からの相談の外、安全安心パトロール隊の高齢者世帯等の訪問により把握。（安全安心パトロール隊は町が社会福祉協議会に委託）
- ・ チームの設置により、認知症が疑われる人に早期に関わることができ、認知症サポート医の助言のもと、かかりつけ医や専門医をはじめ関係機関との連携が促進された。
- ・ 医療と福祉サイドでそれぞれ受けていた認知症に関する相談が、一つの会議の場で定期的に共有、検討できるのは、多職種連携、地域連携のきっかけとして大変有効。

3 今後の展望

- ・ 本人のできる事を引き出し、元気な人をスタッフに引き入れる。認知症の人にやさしい地域づくりを進めていく。

4 事業を遂行する上でのポイント

- ・ 広くチームの存在を周知することが必要。
- ・ チームの対象として終了した後もモニタリングが必要(医療、介護、社会資源を利用できているか等)。

チーム員職種内訳	人数
医師(サポート医)	1
保健師	1
看護師	1
社会福祉士	2
チーム員の総数	5

II 認知症地域支援推進員

1 設置状況 (平成27年11月 設置)

- ・ 地域包括支援センターに兼任で2名配置。(保健師、社会福祉士)

2 取組の状況(主なもの)

- 認知症の人を支援する関係者の連携を図る取組
 - ・ 認知症ケアパスの作成普及(平成30年5月発行)
- 認知症対応力向上の推進
 - ・ 地域ケア会議等で処遇困難事例の検討(月1回、第2木曜日)
 - ・ うごまちSOSよりそいネットワーク事業(研修会、模擬訓練)
- 在宅生活継続のための相談・支援
 - ・ 認知症サポート医による助言、個別支援
- 家族に対する支援事業
 - ・ 家族介護者教室の開催(年1回)
 - ・ 認知症カフェの開設(3ヶ所)

〈認知症ケアパス〉



〈キャラバン火曜サロン〉



うごまちキャラバン・メイト認知症
サポーター協会主催(月2回)

〈おさんぽオレンジかふえ〉



若竹元気くらぶが運営(月1回)

〈ハッピー運転教室&Dカフェ〉



自動車学校と共同実施(月1回)

II 認知症地域支援推進員

- ・ 認知症サポーター養成講座、認知症サポーターステップアップ研修の開催

認知症サポーターの養成 2,677名、キャラバンメイト 346名

※フォローアップ研修として、平成23年度から28年度までキャラバンメイト向けの活動報告会、研修会等をうごまちキャラバン・メイト認知症サポーター協会の協力のもと毎年実施。

平成29年、30年に認知症サポーターステップアップ研修を実施。(77名受講)

〈サポーター養成講座〉



〈ステップアップ研修〉



○ 多職種協働研修

- ・ 認知症ライフサポート研修による多職種協働研修



3 事業を実施するうえでの課題

- ・ 認知症への理解不足が見られる(相談窓口や診療科が分からない)ため、認知症についての知識や対応の仕方などを伝える場を持ち続ける必要性を感じている。
- ・ 既存の介護サービスや、家族の協力では限界がある事例も多々あり、認知症カフェや見守り体制の構築など本人に寄り添ったサービスの模索等、継続的な体制整備が課題。

4 事業を遂行する上でのポイント

- ・ 推進員として行政、医療、介護、地域の現場、認知症の人とその家族にとにかく会う。会って話をして、当事者・関係者の仲間を増やす。待つのではなく現場に出ること。

III 認知症の人の見守り体制

1 現在実施している事業の内容

- ・ うごまちSOSよりそいネットワーク事業

2 実施するまでの経緯

- ・ 平成25年度から7つある地区を1地区ずつ順番に実施(30～50名参加)

3 事業を実施した事による効果

- ・ 各地区の認知症の理解促進につながった。
- ・ 認知症で道に迷っている高齢者に声をかけるポイントの理解と、声をかけた後の相談先の周知が図れた。
- ・ 警察、民生児童委員、社会福祉協議会支会、地域振興会など支える中心となる組織との関わりが増えた。

4 今後の展望

- ・ 来年度の新成地区の訓練で羽後町全地区にて訓練を実施。
- ・ この訓練がきっかけで、普段の生活から見守り、声かけを行っていきこうという新たな住民活動がスタートしている。

〈模擬訓練の写真等〉

